

大学院研究年報用 原稿様式の細目

○ 原稿

1. 原稿は、和文または外国文のいずれかで作成し、電子化様式のワープロソフト（word、一太郎等）で作成した電子データと印刷したものを指定日までに提出すること。また、投稿された原稿は、掲載の可否にかかわらず原則として返却しない。
2. 図、グラフおよび写真は別紙とし、本文に挿入箇所を明記すること。また、提出の際は、電子データと印刷したものを提出すること。
3. 投稿した論文において引用したデータ、図および写真等の著作権については、「奈良大学リポジトリ」にも公開するので、執筆者において二次利用も含めて著作権の手続を済ませておくこと。万が一、著作権に関し問題が生じた場合は、執筆者の責任において処理すること。
4. 枚数・ページ設定は『奈良大学大学院研究年報』第23号 投稿要領のとおりとし、原稿の作成については次の執筆の手引きと別紙「記入例」を参照すること。

○ 執筆の手引き

1. 論文は、「表題」、「著者名」、「所属」を記し、「外国文の表題」、「外国文の著者名」を付けること。
2. 原稿は、「本文（概要または要約を含む）」、「注」、「参考文献」、「図」、「表」、「写真」の順に揃えて提出すること。さらに、日本語の論文は「Summary」を、外国語の論文は日本語の「要旨」を別に作成して、論文と一緒に提出すること。
3. 「要旨」および「Summary」には、キーワードをそれぞれ3～5つ付けること。
【和文要旨の場合】 キーワード : ○○○○、○○○○、○○○○
【Summary の場合】 key words : ○○○○、○○○○、○○○○
4. 本文の章わけは、大項目より小項目への順序は次のとおりとする。
【縦書きの場合】 漢数字の 一 二 三 ……
【横書きの場合】 ローマ数字の I II III ……
5. 「注」は論文の末尾に一括して掲載するものとし、通し番号で本文内の指示番号および注の番号も同じ形式で、次のとおりとする。
【縦書きの場合】 1 2 3 4 ……
【横書きの場合】 1) 2) 3) 4) ……
6. 「参考文献」は論文の末尾に一括して、本文中に引用した順に記載するものとし、著者名、論文名、書名、出版地、出版社、出版年（掲載年）、雑誌名、巻号、掲載頁、URL等、資料形態に応じて、書誌情報を記載すること。

〔表記例〕

池田数好 訳 (1973) : 集団精神療法の基礎. 岩崎学術出版社.

増井武士 (1987) : 症状に対する患者の適切な努力—心理療法の常識への

2, 3の問いかけ—. 心理臨床学研究, 14(2),18-34

Bion, W. (1961) : *Experiences in groups*. London: Tavistock Publications.

Klein, M. (1946) : Notes on some schizoid mechanisms. *International Journal of Psychoanalysis*, 27, 99-110.

7. 図、表、写真等は、本文とは別紙とし、本文に挿入箇所を指定すること。また、それぞれに一連の番号を付け、さらに題名（キャプション）を付け、番号および題名は、図・写真の場合は図・写真の下、表の場合は表の上につけること。

〔例〕

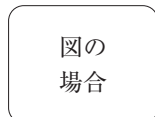


図1 ○○○○

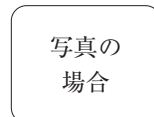
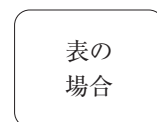


写真1 ○○○○

表1 ○○○○



8. 「謝辞」が必要な場合は、「本文」と「参考文献」の間に記載すること。

9. ランニングタイトル（各ページ上のタイトル）は、執筆者名を含めて、和文35字以内、外国文12語以内とする。

以上